



INGING MOTORSPORT.



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [<http://www.inging.co.jp>]

INGING NEWS PAPER 2015 VOL.05

Race Report 2015年8月23日 ツインリンク茂木
Round.4 TWIN RING MOTEGI 8/23 Final



石浦選手、第2戦岡山以来の2勝目を達成

POLE TO WIN!

**TAKE
FREE**
無料



Congratulations!



SUPER FORMULA AUTOPOLIS 9/12-13

Support by **cyber net**
株式会社 サイバーネット

一度もトップを譲ることなく1分35秒台を連発し、ひとり次元の違う速さを維持しゴール

石浦ポールトゥウィン

Race Report Round.4 TWIN RING MOTEGI 8/23 Final 決勝 2015年8月23日 ツインリンク茂木

天候:曇り | コース状況:ドライ 決勝 [52 Laps : 249.672 km]

“ストップ&ゴー”と言われる加減速の激しいドライバーの身体的にも厳しいコース。

どんよりとした曇り空ながら、朝のフリー走行までは持ちこたえていた雨。しかし、ピットウォークのタイミングでスコールのように大雨が降り、スタート直後のスタート直後はウエット路面が出されてぬかるみ、それもスタート直後の時間帯は雨の勢から青空も見え、コース上、特にアウト側のレコードラインはスタート直前には薄ばドライコンディションに回復していた。ポールポジションの石浦はこのアウト側からスタートすると、後方からロケットスタートで迫る中嶋一貴を抑え、トップで1コーナーを通過。オープニングラップで0.8秒、4周目には1.7秒と依りて飛ばして後続とのギャップを広げていった。またコース上には黒くぬれた箇所が残る中、2番手以下は1分36秒前半から中盤のタイムでラップを重ねていくが、石浦は唯一1分35秒台を連発し、ひとり次元の違う速さを維持していた。レースの折り返し地点となる26周目には、2位との差が9秒に。背後では、各車が給油のためにピットに入り順位が目まぐるしく変

わっていくが、トップを快走する石浦は動じる様子もなく順調に周回を重ねていった。他のドライバーが全員ピット作業を終えたところで、石浦は速を持ちして35周目にピットイン。チームは13.7秒というタイムで給油とタイヤ交換作業をすませ、石浦はトップでコース復帰を果たす。フラッシュバックに熱が入りペースが戻ってくる、ふたたび1分35秒台のタイムを連発し、39周目には1分35秒037でファステストラップを記録した。このまま独走状態でシーズン2勝目を飾るかに見えたが、残り10周を数える頃からわずかに流れが変わりはじめる。それまでは2番手を走る中嶋よりも速いタイムを記録して差を広げて続いていたが、42周目には中嶋が自身のベストラップを延滞。ここから石浦よりも速いタイムを連発してギャップを縮めはじめたのだ。47周目には、石浦のマークしたファステストラップを塗り替え、1分34秒4台に突入。一時は7秒以上開いていたギャップは5秒を切っていた。ここから中嶋はさらにギャップを縮めたかのような走り、石浦を猛追。

50周目には4秒、翌周には3秒と、目に見える距離で石浦と中嶋との差は縮まっていったが、石浦はこの猛追にも動じることなくマシンをコントロールし、トップを死守。シーズン2勝目を飾った。2位に中嶋、3位にはJ.P.デ・オリベ(イギリス)が表彰台上位3人が表彰台を占めたためドライバーズランキングの順位変動はなかったが、石浦はオリベとのポイント差を7ポイントに、中嶋との差を8ポイントに広げた。

予選12位からスタートした国本は決勝での巻き返しを誓っていたが、スタート位置が影響し、思うようにペースを上げられずにいた。早めにピット作業に入ることで、前後に他車のいないスペースでランのペースを上げていく作戦をとったが、ピットの際にエンジンストールを喫し、タイムロス。終盤まで懸命の走り続けたが、最終ラップでガス欠症状が出たためコースサイドにマシンを止めることとなった。



Y. TACHIKAWA

立川 祐路

Team director

チームとして、岡山で久々の優勝を飾りましたが、こんなに早く2勝目を挙げられるとは思っていませんでした。石浦は最近絶好調で、安心してすべてを任せていれます。そんな石浦の走りを可能にしてくれているのは、エンジニアやチームスタッフ、一人一人の頑張りのため、それにも感謝しています。国本に関しては、早めのピット作業をとったのがエンジンストールしてしまい、さらに遅れる形になってしまいました。なかなか悪い流れから抜け出せないですが、本人に遠慮はあるし、流れに任せるかどうかという問題だけだと思います。今回は初めにトラブルが発生したこと、予選で力を発揮できず、レースにも影響してしまいました。早く悪い流れを断ち切れるよう、シーズン後半に向けて気持ちを新たに戦っていききたいと思います。

38

H. ISHIURA

石浦 宏明

予選1位 決勝優勝

決勝ではトップから逃げるレースがきたらと考えていたが、後続との差も離せていたし、前回の優勝とは違い、残りあってというよりは単独走行でレース前半は進んでいったのですが、後半の中嶋選手へのペースには正直びっくりしました。こちらがアシリエしてなれずに追いついてくるので、序盤との違いは何なんだ?と、素直なレースではありませんでした。でもそれはブレーキングポイントで少しでも遅るとコースアウトのリスクもありますし、最後まで安定してプッシュするのはとても難しく、最後まで集中力を切らさないように言い聞かせて走りました。シーズン2勝すれば、タイトル争いも少しは光が見えてくるだろうと思っていましたが、実際にはランキング上位のドライバーが表彰台を占めるので、まだまだ何が起きるかわかりません。シーズン後半戦も、勝利を重ねていくつもりで頑張ります。

39

Y. KUNIMOTO

国本 雄資

予選12位 決勝18位

朝のフリー走行の時から、厳しいレースになるだろうという覚悟はしていました。少しでもピット作業でポジションを上げようという無意味な作戦をとりましたが、エンジンストールしてしまい、ピット作業前も、作業後も、あまりペースが良くありませんでした。今日のレースを含め、シーズン前半の戦いをしっかりと分析し、残り3戦に向けて、まずは予選で速いウエルマを作らなければいけないと感じています。いいグリッドからスタートすれば、今は速くなったレース展開で必ずしもレース中の戦いの幅も広がられると思います。予選一発の速さを上げられるよう、頑張っていきたいと思っています。